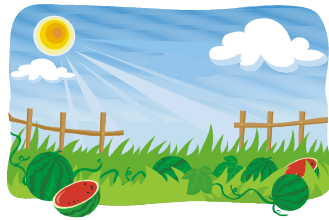


## 「あったかいまち」三浦

**暑** 中お見舞い申し上げます。暑い日が続きますが、熱中症にならないよう体調管理に注意して夏を乗り切りたいものですね。

**日** 々の生活の中で、筆者が感じ考えさせられた三つの事を書きたいと思います。



つ目は、挨拶の大切さです。1歳半になる息子と散歩をしている時に、通りすがりの見知らぬ人が、声を掛けてきてくれるという経験を何度かしました。そしてその一声で、明るく爽やかな気持ちになることに改めて気付かされました。そして息子も、人見知りをしなくなり、手を振って応えるようになりました。挨拶や近所付き合いなど昔から大切にしているものを誰もが実行していただくだけで、心の輪が広がっていき、明るく子供達にも安全なまちになっていくのではないかと思います。

まずは小さな一歩ですが、自分から率先して挨拶を始めたいこうと思っています。



つ目は、助け合いの大切さです。図書館に本を借りに行った時、本の傷みがひどいのが目につきました。折れ曲がったまま返されている本、ボールペンで線が引かれている本、中にはページごと破られている本まで見受けられました。公共物であれば乱雑に扱ってもいいということなのでしょうか。他人が手にする物であればこそ、大切に扱うべきではないのかと思います。悲しくなりました。今の世の中は自我欲が強いように感じます。もっと一人ひとりが思いやりを持ち、助け合いの精神を身に付けていけば、過ごしやすく温かさに満ちた、より良い環境が作られていくと思います。

つ目は、昨年収納担当を経験して感じたことです。毎月一度の休日開庁日に自ら足を運んで納税に来られる方、不況の中で生活を切り詰めて税金を納めてくれる方々の、納税に対する姿勢を目の当たりにし、税金のありがたさを肌で感じ、三浦市発展のために大切に使い切らなくてはならない、という事を痛切に感じました。



現在、三浦市の財政は大変厳しい状況に置かれています。納付して頂いた市税を1円たりとも無駄にしない、という気持ちを持ち続けて財政運営を行なっていき、心と心が通い合う「あったかいまち」三浦と語り継がれるよう、日々精進していきます。

(財政課 下平 哲之)

## 暴論オピニオン (28)

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

### 会議出席者の責任

月刊誌ガバナンスの4月号の記事である「会議の技術」に興味深く読んだ。

「会議は無法地帯」とのタイトルが付けられた前半の会議の例示については、幸いというべきか、ここまでひどい会議に出席した経験は無いな。という感想をもったが、後半の指摘には極めて同感する箇所があった。

具体的には、会議の席上では発言しないのに、会議が終了した後に指摘や非難をするという行為について、「卑怯千万である」と指摘をした記述に同感したのである。とりわけ会議終了後急に元気になり発言する出席者がいる会議との指摘、私見ではあるが、このような会議の経

験が無い人のほうがむしろ珍しいとさえ言えるのではないだろうか。

さて、会議では指摘をしないのに終わったあとに指摘をするという行為の原因は、どのようなことが考えられるのだろうか。

まず、その場では思い付かなかったが、よくよく考えてみたら指摘すべき事項を思い付いた。というケースが考えられよう。また、その場ですでに指摘すべき事項を思い付いていたが、あえて指摘をしなかった。などのケースも考えられる。

そして、あえて指摘をしなかったケースについては、なぜ指摘をしなかったかの原因別に、さらに分類できると思われる。まず、指摘について少し自信が無かったのが後日個人的に指摘することとした。次に、その場で指摘について思い付いていたが、指摘するまでも無いか又は指摘の内容が個人攻撃的に感じられてしまうなどの弊害が生じる恐れがあると判断したため指摘しなかった。しかし後日になり、指摘しておいたほうが自分自身にとって良いと判断したため、後日個人的に指摘したというケースである。

この分類は少しわかりづら  
いかもしれない。自分自身  
にとって良いという判断という  
のは、「免罪符」として個人的に  
指摘をするという判断をした、と  
いう意味である。つまり、会議では指摘しなかったけれど、  
自分はこの点に問題があると気付いていることを伝えて  
おく。伝えたことによって、伝えた本人は指摘しそびれた  
罪悪感から解放されるという意味である。

なお、この分類はあくまでも、筆者の経験に基づいた  
筆者の私見であることを念のためお断りしておく。

その上で、それぞれが持つ問題点について分析する。  
後日指摘事項を思い付いたケースについては、仮に事

前に会議資料が配布されていれば事前の準備不足が  
非難されよう。

次に指摘について自信が無かったので指摘をしな  
かったケースについては、会議の趣旨に反する行為である  
と考えるべきである。自信が有ろうが無かろうが、意見は  
述べるべきである。さまざまな意見を聞いた上で協議す  
ることが出来るのが、会議のメリットの一つであるのだから。



最後のケースである、  
後日になって指摘したほう  
が良いと判断したケースについて  
はどうであろう。言葉を選ばずに言  
えば、この分類がもっともたちが悪  
いと考える。会議という意見を表明すべき場において意  
見を表明しないのにもかかわらず、さらに言えば、表明し  
ないという意思決定をしたのにもかかわらず、後になり  
「自身」のためという目的をもって個人的に指摘を行う。

さらに問題なのは、会議の席上での指摘であれば修  
正が可能であったのに、修正が不可能な時期に「自身  
の免罪」のために個人的に告げられるというケースがあり  
得ることである。たちが悪いという表現も、ご納得いただ  
けるのではないだろうか。

明確な目的をもち、わざわざ時間を割いて行われるの  
が会議である。出席する以上、会議の趣旨に反しないよ  
うに、また、信義にもとることのないよう、出来る限りその  
席上で意見を述べようではないか。筆者自身の反省もこ  
めて述べさせていただいた。

**「ぼっこすこせえる」とは・・・**神奈川県三浦市には三崎  
弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こ  
せえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は  
「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

**次号(第38号)は9月17日発行です。**



三浦市長の吉田ひでおです。8月11日、最大震度6弱を記録した駿河湾を震源とする地震において被災された方々にお見舞い申し上げます。  
日本はいつどこで大きな地震が起きてもおかしくない地震大国として知られています。この度、地震に見舞われた静岡県地方の多くの方々には、いつ起こるか分からない東海地震に備え、家具の固定などの地震対策を行っていたのが功を奏し、地震被害が比較的少なかったというニュースを耳にしました。正に「備えあって」の成果だと思えます。  
三浦市においても、近い将来、南関東直下型地震の発生が懸念されています。備えが必要なことは頭の中で分かっているにもかかわらず、なかなか実行できないのが現実です。地震に限らず、これから台風シーズンも迎えます。市民の皆様一人ひとりが、まずは身の回りからできる範囲で災害に備えていくことが、被害を小さく抑えることにつながるのだと思えます。  
この際、ぜひ身の回りの災害に対する備えを再点検してください。